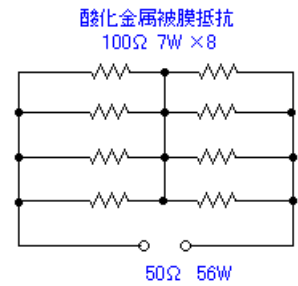
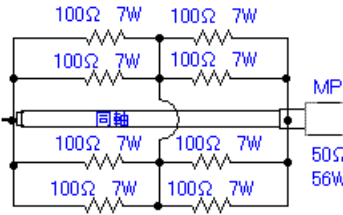
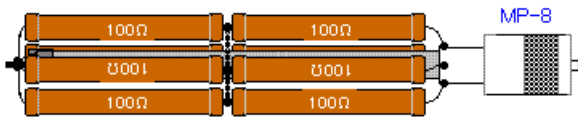


HFから50MHz帯で使用できるDUMMYLOAD、50Ω を作ります
 7W 100Ω の酸化金属皮膜抵抗 8本を、直列、並列配線して、56Wのダミー抵抗とします
 コネクタMP-8に、8D同軸を立ち上げて同軸ケーブルのまわりに、100Ω 抵抗2本直列を4個作り、更に4個を並列配置してハンダ付けします DC~50MHzでVSWR 1.1 以内になりました、良好です

回路図

DL56M 構成図



製作例



部品表

酸化金属皮膜抵抗	100Ω 7W × 8本
同軸コネクタ	MP-8(Ni) × 1
同軸ケーブル	8D-FV × 1550mm
絶縁テープ	自己融着 FB-W 少々

VSWR 特性

周波数 MHz	~30MHz	50MHz	100	145
VSWR	1.05 以下	1.1	1.3	1.4

組立後のチェック

半田付けが終わったら、テスタ抵抗計で、MP-8の中心コンタクトと外側ボデー間の抵抗値が50Ω (48~52Ω) になっていれば、完成です

(注意)

半田付けは、かなりの高温になります、ぬれ雑巾などを用意して、冷ましながら作業してください、やけどなどしないよう十分注意して下さい

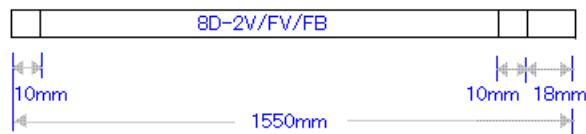
(使用上の注意)

使用中はダミーロードが次第に温度上昇してきます
 熱くならないよう細心の注意して下さい、
 ダミーロード抵抗が温かくなったら、直ちに中断して、十分冷却してから、使用して下さい

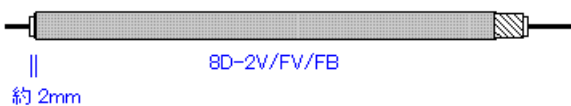
コネクタの半田付けには、高温の半田ごてが必要です。ICから極太ケーブルまで対応のgootの即熱はんだこて TQ-77が、おすすめですがgootの即熱はんだこて TQ-77は、¥3,150円(税込)で大進無線で取り扱います

----- 50Ωダミーロード DL56Mの作り方 -----

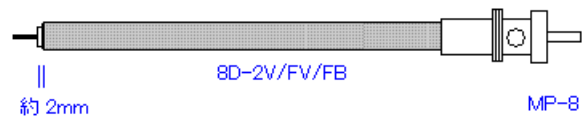
①8D 同軸1550mmの片側は、MP-8に取付け加工します



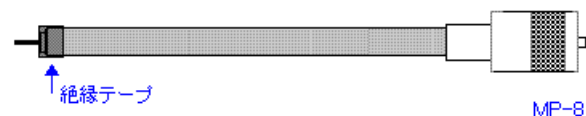
②もう片側は抵抗と接続加工をします
 芯線を5~8mm出しておきます



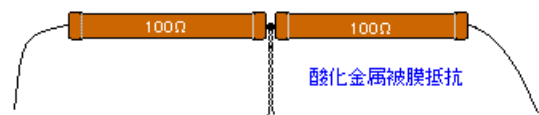
③MP-8プラグを半田付けします



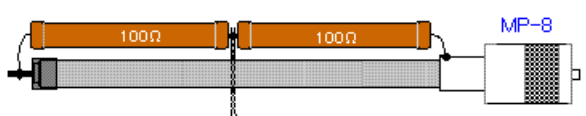
④テープで網線を絶縁しておきます



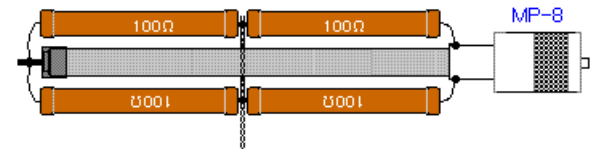
⑤2本の抵抗を直列に接続リード足をねじり合わせます
 4組の直列抵抗を作ります 下記のように抵抗の方向をあわせず



⑥4組の直列抵抗を同軸のまわりに配置します
 同軸の芯線とMP-8のボデーに半田付けします



⑦4組の直列抵抗は、隣同士の方向を、たがいに逆方向に配置します



⑧4組の直列抵抗の配列 2本直列接続してねじり合わせたリード足を接続半田付けします

